

国際ことば学院日本語学校 募集要項 2027年度入学者用
進学のための日本語 1年課程
学習課程(カリキュラム)について

1. 学習到達目標

国際ことば学院日本語学校「進学のための日本語1年課程」では、次の学習到達目標を設定し、この目標を達成した場合、「課程修了」として認めます。

■到達目標1

「自分の将来を自ら決定し、継続的に学ぶ力を身につけることができる。」

- ・生涯にわたる自律的な学習を促進し実行に移すことができる。
- ・自身で言語熟達度の目標を設定しその到達度を確認、調整したりすることができる。
- ・多様な情報リソースから新たな知識や気づきを自律的に吸収し、楽しむことができる。

- (例) → 将来に必要な資格試験や就職試験のための準備が自分でできる
→ 日本語を使ってできることが増えて、生活を楽しむことができる

■到達目標2

「自分に関心のある幅広い分野について要点を汲んだり、熟達した日本語話者となめらかなやりとりができる。」

- ・大学の講義や仕事上の会議や議論の要点を正確に把握できる。
- ・専門分野の学術的な記事を理解し、主張のはっきりした文章の結論や議論の筋道を把握できる。
- ・幅広い話題に対し、理路整然とした論拠と事例を並べ、多角的な視点で詳細なプレゼンができ、質疑応答にも流ちょうかつ自然に対応できる。
- ・複数の情報源を論理的に一つに統合し、選択肢の利点、不利な点を説明する高度なレポートやエッセイが書ける。
- ・読み手を説得できる論理的な提案書などを作成できる。

- (例) → 大学や専門学校に進学して、専門教育を受けることができる
→ 就職先でプレゼンテーションができる

■到達目標3

「積極的に社会とのつながりをもつことができるよう、多様な方略を駆使しながら社会言語的な適切性を意識しその場にふさわしいコミュニケーションをとることができる。」

- ・あいづちやフィラーを使いこなし、会話の流れを能動的に維持、リードできる。
- ・多様な話者に対応し、場面に応じた適切な待遇表現を用いてコミュニケーションができる。

- (例) → 引っ越し先などで初めて会う人とでも自信を持って日本語でやりとりができる
→ フォーマルな場面でも、カジュアルな場面でも、会話に参加できる
→ 住民の一人として地域コミュニティの「輪」に参加できる

2. 科目とスケジュール

この目標を達成するための授業科目とスケジュールは次の通りです。

レベル/時期	科目／時間数／言語活動(自律学習)	特別活動
中級2ー1 [B1] 春学期 4月～6月 192時間	【総合日本語】 120時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 18時間 読むこと・書くこと 【聴解】 10時間 聞くこと 【文法】 19時間 書くこと 【読解】 15時間 読むこと 【キャリア形成】 5時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 5時間 自律学習	診断テスト 入学式 健康診断 交通安全教室 カウンセリング 実力テスト
中級2ー2 [B1] 夏学期 7月～9月 192時間	【総合日本語】 130時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 18時間 読むこと・書くこと 【文法】 19時間 書くこと 【読解】 15時間 読むこと 【キャリア形成】 5時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 5時間 自律学習	運動会 防災訓練
上級1 [B2] 秋学期 10月～12月 192時間	【総合日本語】 139時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 18時間 読むこと・書くこと 【文法】 10時間 書くこと 【読解】 15時間 読むこと 【キャリア形成】 5時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 5時間 自律学習	研修旅行 校内実力テスト
上級2 [B2] 冬学期 1月～3月 192時間	【聴解】 40時間 聞くこと・地域住民との意見交換会 【読解】 40時間 読むこと 【対話】 40時間 やりとり 【プロジェクトワーク】 27時間 話すこと(発表) 【小論文】 32時間 書くこと 【キャリア形成】 9時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 4時間 自律学習・口頭発表	学習成果発表会 卒業式
合計 768時間 (1時間=45分)		

3. 開講される科目とその目標

■総合日本語■

- ・自分の専門分野や関連のある話題において、複雑な内容であっても主要点を理解できる。
- ・また、日常的な話題から社会的、専門分野に関連する話題まで、複数の情報や立場を整理し、理由をもとに自分の意見を述べることができる。その際、他者を尊重しながら議論や発表、文章作成を行い、円滑なやりとりを行うことができる。

■漢字・語彙■

- ・日常的に目にするものから、進学先、就職先の専門的、社会的な分野で出会う可能性のある語彙や漢字表現の意味や用法を理解し、文脈に応じて適切に選択し、運用することができる。
- ・また、使用場面の違いを踏まえて語種の差、類意表現についても理解し、適切に語彙を選択したり、読むことと書くことの言語活動として運用できる。
- ・自身で整理し、意味やコロケーションの特徴を学習した語彙を用い、自分の関心のある分野の読み物を読み、その重要なポイントを把握することができる。

■聴 解■

- ・身近な話題から社会的な話題、自分の専門的な話題について、話の要点や話し手の意図を理解するための方略を用いて内容を理解できる。
- ・未習語や聞き取りにくい部分があっても文脈や話の流れから推測しながら理解できる。また、講義や会議などの内容を整理して意見交換や議論に参加することができる。
- ・Web の動画やテレビ放送番組などの映像付き音声メディアを理解し、その情報の要点を理解できる。

■文 法■

- ・入学までの母国等での学習で身につけた機能的表現を用いて、自分の意図する強調や心情といったモダリティの表現を適切に使い分けて表現することができる。
- ・社会的・専門的な話題に関する談話や文章において用いられる文法表現の意味や機能、類意表現の使い分けを理解し、文脈や意図に応じて適切に相手に誤解を与えないで伝えられるよう運用することができる。

■読 解■

- ・読解の方略や仲介のためのリソースを活用して専門的、社会的テキストについて、主張のはっきりした文章の結論や議論の筋道を把握することができ、要点や筆者の視点を理解できる。
- ・得た情報を他者と共有し、現代の社会的課題について多角的に考えることができる。
- ・また、エッセイなどの暗示的な意味が示されている文章について、仲間や教師の支援を受ければその存在に気づくことができ、様々な目的や文芸ジャンルの種類に応じ読み方を変えながら読み解き、筆者の主張や、情報の核心部を読みとることができ、それを楽しむことができ

る。

■対 話■

- ・社会生活における多様な日本語話者との対話において、場面に応じた話し言葉の特徴や言語的多様性を理解した上で、相手を尊重したり、相手に敬意を払うなどし、異なる立場の者との人間関係を円滑にするための社交的なやり取りを自律的に展開できる。
- ・熟達した日本語話者を相手に社会的関係を維持したまま言いたいことをそのまま正確に自然にコミュニケーションができる。

■プロジェクトワーク■

- ・自身の関心のあるテーマを自ら選択し、学外への取材活動を通じ社会とのつながりを意識した日本語を使った行動、活動を実践できる。
- ・他者との協働により活動に取り組み、成果として信頼を得られる程度に日本語を用いて情報を詳しく伝えることができる。

■小論文■

- ・日本国内の共生社会の課題や、世界規模の社会的な諸問題に対し、生徒自身に関心のあるテーマを見つけ、その話題に関し複数の対立する視点を比較・検討し、根拠に基づいた自らの考えを論理的かつ明瞭に日本語の文書にまとめることができる。

■キャリア形成■

- ・自身の生きるテーマとキャリア形成との関連性を明確にし、その過程で日本語で議論を行ったり、情報を収集できる。
 - ・特定の課題について重要なポイントを理解し、報告書や提案書を作成することができる。
- ビジネスや大学の研究室の訪問場面などでの日本語でのやりとりの敬語やマナーを理解し実践できる。
- ・意見や提案と、その根拠をはっきりと述べることができる。

■チュートリアル■

- ・他の授業科目で学習した内容をふまえ、自分の進路、進学先で新たな分野を学んだり、企業に就職して研修を受けたりするなど、卒業後に自分の専門分野での言語活動に対応するために自己の課題をバックワードで設定し、正確に把握・分析し、学習方法や不足している項目を自ら補完したり調整、改善できる。
- ・また、自身の進路の専門分野に係る社会問題について調べて発表する活動や、「実力テスト」(校内で行う熟達度試験)を受験したうえで自身の学習の強みや弱み、学習課題を整理する方法を身につけ、卒業後も継続的に言語活動を発展させることができる。
- ・1年間学習を共にする仲間や教員の支援を受けながら共に学ぶことができる。

4. 成績と修了・卒業について

各科目の成績は、学期ごとに行われる試験や学習活動の状況で決定します。

科目ごとの試験の合計点(評点)によって、5つの段階で評価し、合格か不合格で判定します。

判定	成績評価等	評点	内容
合格	A	90%以上～100%	目標を十分に達成し、特に優秀な成果を収めている
	B	80%以上90%未満	目標を十分に達成した
	C	70%以上80%未満	目標を達成した
	D	60%以上70%未満	目標を最低限度達成した
不合格	F	0%以上60%未満	目標に及ばなかった
認定	認定	—	科目の性格により評点では評価しづらい科目の目標の達成

1つでも不合格の科目があると、修了にはなりません。また、科目ごとの出席率が80%以下の場合や、試験を受けなかった場合には、不合格となります。

課程の最後に「総合評価」として下の表のようにS～Fの5段階で成績証明書に表示します。

総合評価の評点は、学期ごとの科目(認定・不認定として評価する科目を除く)の評価A～FをそれぞれA=4、B=3、C=2、D=1、F=0の値に換算し、全課程、全科目の成績の値の合計を全科目数で除した平均を算出し、小数点第3位以下は四捨五入したものです。

総合評価の判定	評点
S・秀	3.50以上
A・優	3.00以上3.50未満
B・良	2.00以上3.00未満
C・可	1.00以上2.00未満
F・不可	1.00未満

「卒業」の条件

- 1)すべての科目の科目が合格または認定で、総合評価がS・秀、A・優、B・良、C・可、「認定」の判定を受けていること
- 2)課程の最終日まで在籍し、かつ課程全体の出席率が80%以上であること
- 3)授業料を課程の最終日までに完納していること
- 4)在籍中に処罰を受けていないこと

5. その他 注意点

入学には、条件があります。募集要項をよく読み、わからない場合は学校まで直接たずねて、確認をしてください。